

## 平成26年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(伊勢市)の概要

11月15日(土)に伊勢市の「特定非営利活動法人マイトリ・指定障害福祉サービス事業所 step by step」で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「障がい者支援に取り組む step by step」関係者の皆さん11名の方に集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



### 【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

#### (活動紹介)

○この障害者支援施設を開設して10年になる。社会生活を営むのに少し不自由な方々の応援をしている。障がい者の方々とこれからも私達の施設の標語である「焦らず、あわてず、ゆっくり、一步一步前進していきたい」と思って活動をしている。

○施設利用者には、ネジ入れ作業や、おみくじ・お札づくり、自動車のハーネスの組立、自衛隊官舎の清掃、パソコン入力等の作業のほか、アルミ缶、古紙等のリサイクルなどの活動をしてもらっている。

○また、ソフトバレーやお誕生会、イチゴ狩りなどのレクリエーションも行っている。

Q 支援者の方は、この活動を通じて、良かったこと、嬉しかったこと、利用者の方は、この施設に通って、楽しかったこと、嬉しかったことなどの自慢話を聴かせてください。

○利用者の就職先をハローワークに通って探してくるのだが、それが就職に結びつき、利用者が喜んでくれる、その時が自分にとって一番嬉しい。

○利用者が来づらい時は励ましここへ来させているが、来ると集中力ができて、作

業をこなし、本人も達成感を味わって帰っていく。その利用者を送り出す時、充実した1日を過ごさせることができたという喜びを感じる。

年末にお楽しみ会があり、その時に理事長から、「頑張ったで賞」というのを渡すが、賞をもらった利用者の笑顔が素晴らしいのと、もらえなかった利用者も来年は頑張るという励みになっていて、すごく良い趣向になっている。

ここでは、他の人との比較ではなく、その人が何かの問題をクリアしたり、目標を達成したら、工賃を上げるというようにして、励みになるような工夫をしている。理事長と所長の二人が、本当に親の代わりになって、一緒に悩んでもらって、息子に手をやいてくれるので、本当に私達家族は感謝している。

息子がここへ通って、いろんな作業を教えてもらい、実際に作業をしている様子を見学すると成長している息子の姿がわかり、親としてありがたいと感じる。

ボランティアとして一緒に作業をしているが、笑顔もなく憂鬱そうな顔をしてここに入って来られた方が、1、2か月経つにつれて、笑顔で「おはようございます。」ときちんと挨拶をして、理事長達の言われた事をキチキチと、最後まで責任もってやる姿を見て、嬉しく思っている。

自動車のハーネスの組立をここに依頼しているが、不良品が全然なく、納期も早く、本当に素晴らしい。うちの工場の中で、今度どこに仕事を出さしてもらおうという時皆が「step by stepさん」という言葉が出るくらいである。

今、自動車部品のハーネスの組立をしているが、皆さんの協力があつたからこそできるようになったので、皆さんに感謝している。

理事長や所長は第二のお父さん、お母さんのようで、身体のことを心配してくれる。怒られることもあるが、褒めてもくれる。褒めてもらえると嬉しいし、また、頑張つてやろうという気になる。

一人暮らしをしていて、時々ぐずったり、引きこもったり、休んだりして迷惑をかけているが、理事長も所長も怒りながらも受け入れてくれる。もう少しここに置いてもらいたいと思うくらい感謝している。

こちらに通うようになって、規則正しい生活ができるようになったのがうれしい。作業していて自信がないところがあつたが、「できたやん」って褒められたりするとすごくうれしくて、自信にもつながり、苦手なことにも挑戦できるようになった。ここを卒業し働いている。最初は働くという事に自信がなかったが、理事長や所長が、欲しい時に欲しい言葉をかけてくれるので、それで安心して働いている。

**Q この活動をより良くするためにこんな課題があるとか、行政でこういう支援があればいいなと思うことなどありませんか？**

県や市など、就労の事で頑張ってもらっており感謝しているが、利用者が働くには障がい者への十分な理解がないとできないので、自分たちで会社を作るなど、利用者が安心して働けるところを実現したいと思っている。

この伊勢地域で、障がい者のソフトバレーをしているが、以前は県の保健所から年間2～3万円の支援があつたがなくなった。他人と共同してゲームをするというのは、仕事をする上でも効果もあるので、バレーボールを買う程度の予算は頂きたい。レクリエーションでみかん狩り、イチゴ狩りにいく時に、集団行動できるように市

のマイクロバスを運転手付きで貸してもらえるとありがたいと思う。  
法律が改正されて精神障害者の地域生活への移行が言われているが、地域で生き生きと生活するためにどういうふうなことをすれば良いのか、その先進国、特にヨーロッパなどで、自分の目で確かめる機会を是非県で作ってもらいたい。

### 【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事から次のような発言がありました。

ソフトバレーボールの支援については、平成 33 年に全国障がい者スポーツ大会を開催するため、今後、選手の派遣費用など予算を増やしていく予定なので、皆さんへの支援についても担当の部署でしっかり考えるように言う。

地域移行の先進事例については、保健所の単位で「精神保健福祉連絡会」が設置しているので、そうした場でお話をお伺いして、こういう趣旨のところを勉強したいということであれば、国で持っている情報等を提供したり、視察の橋渡しなどにも相談に乗らせてもらう。

利用者の皆さんの自分のペースだけでもチャレンジをしていく、それを理事長ご夫妻をはじめ皆さんで応援していく様子を聴いて、本当に嬉しく思った。



【「障がい者支援に取り組むstep by step」関係者の皆さんとは】

ステップバイステップ

「step by step」は、主に精神障がい者を対象として平成 17 年に設立された市認可の作業所です。

基本方針を次のとおり定め、障がい者の自立のための支援を行っています。

- ・あわてず、あせらず、あきらめずを基本とし、少しずつ前進する
- ・親が自分の子どもを育てるように褒め、励まし、時には注意し、社会生活を身につけ、さらに職業人としてキャリアを積ませる
- ・利用者として利用することにあぐらをかかず、チャレンジ人として最終目標を一般就労におく